令和元年度「地域活性化推進研究プロジェクト」成果報告書

所属部局名	教養・協働教育部門 協働教育ユニット	申請者氏名	中島 敦司
研究プロジェクト名	地元教育の小中高大接続を持続するための地域分析		
当初計画に対する目標達成率	70 %	研究プロジェクトの終了時期	令和２年３月
予算配分総額	259、500 円	経費使用総額	259、458 円（担当課で記入）

【研究プロジェクト事業の成果】

和歌山地域での「地元愛」が育成される教育需要を予測し､小中高大（小学校～大学）が接続することができる教育手法を開発するために、和歌山県下小・中・高等学校に対して、「地元愛教育」に係るアンケート調査を実施した。依頼 374 校に対して、133 校から回答を得ることができた。併せて、2019 年 11 月 16 日（土）17 日（日）に開催された「青少年のための科学の祭典 ー 2019 おもしろ科学まつり ー 和歌山大会（通称：おもしろ科学まつり）」の会場（和歌山大学栄谷キャンパス、総来場者数 5、500）において同様のアンケート調査を実施した。一般来場者 702、県下小・中・高等学校児童・生徒を含む出展者 326 の回答を得ることができた。本研究の目的である和歌山地域における理系教育の需要予測モデルを構築するための基礎的な資料を整備することができた。アンケート結果から、学校と個人が示す「地元愛教育」に対する偏りを抽出することができた。しかし、和歌山地域に固有な特徴として判断するには、他の地域での調査との比較が必要であり、結論を得るには至っていない。今後も調査を継続して、複数の世代を跨いだ長期的な分析を実施する予定である。

【アンケート結果（学校）抜粋】

Q1：貴校の児童・生徒が大学等高等教育機関に進学する際、県内進学を勧めますか？

はい	どちらでもない	いいえ
39	27	56

「はい」が 32.0%となっている。理由としては、「当人の希望する学科、学部が県内大学にあるとは限らないから」「本人や家族の自由であると思う」等、本人の意思を尊重する旨の回答が多い。また、小学校・中学校では、進学について指導は行っていないという回答も多かった。

Q2：貴校の児童・生徒が就職する際、就職先として県内を勧めますか？

はい	どちらでもない	いいえ
52	27	44

上記の進学と比較すると「はい」の数が多くなっている。理由としては、「人材の県外放出が問題だと考えるので」「若者が県外に就職すると、将来的に家庭を持ち、子供ができると、ほぼ和歌山に戻ってこないので、県内の子供の数がますます減少するので」等の将来への心配する意見が多い。一方で、「いいえ」の理由としては、「特に県内にはこだわらない」「進学機関と同様就職するところが少ない」等の理由が挙げられていた。

Q3：貴校では、児童・生徒に対し、生まれ育った地元である和歌山に対する愛（地元愛）を醸成するためのな

んらかの教育を行っていますか？

はい	いいえ
126	4

「はい」が大多数を占めており、なんらかの「地元愛」の教育が行われていることが確認できた。

Q4：上記は、どのような内容・テーマでしょうか？（複数回答可）

和歌山の自然	85
和歌山の名産品	91
和歌山の歴史	68
和歌山の伝統技術	54
和歌山の文化	58
和歌山で発明された技術	23
和歌山の地場産業	83
和歌山出身の歴史上の偉人	80
和歌山出身の現在の有名人や集団（政治家・文化人・芸能人・企業等）	20
その他	8

「自然」や「名産品」「地場産業」「偉人」などをテーマとすることが多い。一方で、「和歌山で発明された技術」を採用している学校は少ない。前述の Q1、 Q2 の回答の中では、和歌山県内での進学や就職を勧めることができない理由として、企業や産業が県内に無いことが挙げられていた。これは、教育サイド、つまり大人の方に「地元への過小評価」が存在することを示す結果と考えられる。つまり、生活の場として地元をみた際に、大人の方に自信がない、という意味だと受け止められる。美しい自然や観光ポテンシャルの高さは、大人の目線では、地元への自信の醸成にはつながっていない、という意味でもある。例えば、既存の地場産業や次世代産業としての期待が目立つ観光産業を基軸とした産業が地元で展開されたにしても、そこに従事する人材には「低所得の仕事しか提供できない」ことを、「大人（親）の目線として（冷静に）知っている」という意味だと受け止められた。分かりやすく表現すると「我が子（だけ）には勧められない」という認識が教育機関にも存在すると考えられた。しかしながら、県内には、和歌山市の化学や海南市の生活日用品等、私たちの日常生活に密着した科学・技術を展開する企業は多数あり、そこでは、新技術の発明・導入が行われている。また、白浜町の IT 等の先進的な事業も増えている。これら、高所得の仕事の提供も期待できる他地域よりも優れている科学や技術に関する新しい内容を子供達だけでなく教育者サイドに積極的にアピールする機会を増やすことが、地域の発展には必要であると考える。

なお、「おもしろ科学まつり」の会場で一般来場者・出展者から回収したアンケートの結果は、下記の青少年のための科学の祭典・和歌山大会実行委員会ウェブページにおいて公開している。

○ https://www.kagaku-wakayama.com/omoshiro2019/Summary/

【当初計画段階との対比】

配分予算は、当初計画の段階より大幅に減額されている。このため、当初に計画していた規模で調査を実施できなかった。しかしながら、教育機関に「地元愛の醸成」に対する重要性への認識はあるものの、同時に「地元への過小評価」が存在することが抽出でき、これは、当初の想定を超える成果であると自己評価している。その一方で、当初に想定していた「地元愛や自信の醸成に成功している」という教育サイドの実感と、その理由についてまでは明らかにすることができなかった。この、次につながる結果の獲得に踏み込めなかったため、その分を減算して、70％の達成度と自己評価した。ただし、減額 50％に対して 70％の到達は、結果的に 20％の上乗せであり、それは、上記、当初の想定を超える成果を得たことを 20％として加算した結果である。

【今後の展望等】

○ 研究プロジェクトの発展性（根拠に基づき記入）

来場者アンケート結果「和歌山で科学や技術にふれることができる機会は十分だと思いますか？」

	2019年度 (N＝663)	2018年度 (N＝187)	2017年度 (N＝748)
思う	33.0%	26.2%	31.7%
少し思う	19.8%	17.6%	21.3%
どちらともいえない	22.3%	21.9%	19.1%
あまり思わない	18.4%	27.3%	21.9%
思わない	6.5%	7.0%	6.0%

今回、県内学校からのアンケート回収率は 35.6%となった。また、「おもしろ科学まつり」でのアンケート回収数は多く、統計的な根拠となる数の資料を集めることができることを本事業では立証することができた。具体的には、過去３年間「おもしろ科学まつり」で回収したアンケートから「和歌山で科学や技術にふれることができる機会は十分だと思いますか？」の結果を示す。過去３年間の回答の傾向は変化しておらず、和歌山地域で、科学や技術に接することができる機会のさらなる充実が必要であることを示している。我々は、調査を継続、さらに大規模に展開することで、客観的なデータに基づいた分析することで、理系教育を通じて地元愛が育成される主成分と教育需要予測モデルを明らかにできると考える。

○ 外部資金等への申請実績及び今後の予定

本研究にも参加する協働教育ユニット研究支援員を代表として、本研究の延長となる事業を R2 年度科学研究費基盤研究（C）に申請したが採択には至っていない。また、中島を代表として、高等教育機関コンソーシアム「R2 年度大学等地域貢献促進事業」に申請した（審査中）。今後も財団助成や和歌山県庁補助金を中心に外部資金の獲得を目指す予定である。

○ 学内における成果の活用（予定も含む）

本事業で整備した資料は、協働教育ユニット（協働教育センター（クリエ））で取り組んでいる県内学校との協働事業（学生プロジェクト活動、おもしろ科学まつり、スーパーサイエンティストジュニア、缶サット甲子園等）の機能強化に必要な基礎資料とする。これらクリエでの取り組みは、県内の小中高大接続ネットワークを確固たるものとする。互いの距離を縮める過程で、本学発の新たなる事業に繋げることができると考える。

○ 学外における成果の活用（予定も含む）

これまで、和歌山県庁労働政策課担当者や県内経営者が、本学学生の和歌山での就職について意見交換するため、クリエに来訪されることが多々あり、その際の資料として本研究で取得したデータを示している。今後は、データをまとめて、学外組織に資料提供できるように整備する。その結果を県内教育行政の方針等とも照合して、若者の和歌山地域への定着を増やすような提言に結び付けたいと考えている。

○ その他特筆すべき事項

クリエでは、『和歌山「で」学べ』をキーワードとした教育を展開している。これは、和歌山「を」学ぶだけでは教育としてのダイナミック性に欠け、また、地域（地元）愛の醸成に不十分であると考えているからである。これは、学生の就職にまで影響する成果を得ている。

【成果の外部公表の方法及び時期】

主に、教育関係学会等で本研究の成果発表を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の予防対策の影響があり、学会そのものに中止、スケジュールの大幅変更が生じており、現時点では、具体的な計画ができる状況にはない。県庁の補助金採択を受けて、2021 年に開催される「紀の国わかやま文化祭 2021」地域文化発信事業の一つとして和歌山県の「科学・技術・環境」をテーマとした理系教育に係るイベントを我々が主催することが決まっている。地域住民に対しては、そのイベントの中で、研究成果を公表するとともに、成果を反映させた理系人材育成の企画を実施する予定である。

※研究プロジェクトの内容・成果等がわかるポンチ絵（写真・挿絵など）や関係資料を添付してください。

経費等使用調査					
配分額	259、500　円	支出額	259、458　円	残額	42　円

経費別内訳対比表

区　分	配分額				支出額			
	内容	員数	単価（円）	金額（円）	内容	員数	単価（円）	金額（円）
人件費	研究協力（アンケート集計作業）	30	900	27000	研究協力（アンケート集計作業）	30	900	27000
	計			27000				27000
備品費								
	計			0				0
運営費	印刷費（アンケート用紙）	400	20	8000	修正テープ	1	425	425
	郵送費	400	500	200000	マスキングテープ	2	331	662
	文房具一式	1	24500	24500	付箋（パック）	1	6890	6890
					マスキングテープ	2	349	698
					クリアーホルダー（パック）	1	798	798
					郵便着払い費用（アンケート回収）	117	99	11583
					印刷費（アンケート用紙）	400	16.5	6600

					印刷費（返信用封筒）	400	18	7200
					発送仕分け費	484	68	32912
					DM 便梱包・発送費	365	148	54020
					宅急便梱包・発送費	119	930	110670
	計			232500				232458
合　計				259500				259458